

令和7年度 第3回 藤沢市立八松小学校 学校運営協議会議事録

開催日時 2025年9月4日（木）午前10時～12時

場 所 八松小学校 相談室

出席委員等	植木 菊治	（会長／辻堂地区民生委員）
	瀧谷 典子	（副会長／八松小学校校長）
	猪野 恭子	（コーディネーター／明治地区青少年育成協議会副会長）
	大石 由佳	（明治中学校校長）
	山本 あや	（本校在籍児童保護者）
	若林 理恵	（藤沢市社会福祉協議会 コミュニティ・ソーシャルワーカー）
	小野 登紀子	（明治地区民生委員児童委員）
	猿渡 智香子	（辻堂二葉幼稚園園長）
	小林 美幸	（明治地区民生委員児童委員協議会主任児童委員）
	梶居 亮子	（八松子どもクラブ クラブ長）
	片山 雄貴	（辻堂市民センター職員）
	小田 龍太郎	（明治市民センター職員）
	吉田 秀樹	（辻堂まちづくり会議 防災担当）
	秋山 るみ	（八松小学校校教頭）
出席委員：14名 オブザーバー（教育総務課1名）		
次第	1	会長あいさつ
	2	学校参観
	3	協議
	4	閉会のあいさつ
協議内容	協議内容	
	（1） 災害時の対応と連携について	
	7月30日に津波警報発表された当日に、どのようなことが起きていたのか。課題を共有し、今後の防災対策について協議を行った。	
	委員：辻堂市民センターでは、280名避難、暑さで屋上から屋内へ移動。着の身着のまま避難した人の備蓄や暑さ対策に課題。	
	委員：道路渋滞、テレビや防災無線、携帯電話の津波警報発令のアナウンスで浸水区域外の住民も避難。車でテラスモールに避難多数。	
	委員：明治市民センターでは、県外からの校外学習中の児童50～60名を受け入れた。	
協議内容	委員：線路北は比較的冷静。部活動中の生徒は、中学校に留め置き。市外での活動をしていた生徒は、現地に保護者に迎えに来てもらった。	
	委員：園児30名が避難、暑さで屋上から屋内へ移動した。JRが夜まで止まっていたので、保護者の迎えは夕方までかかった。災害時の小・中学校の留め置き対応について確認があった。	

委員：避難や防災の拠点となる学校との関係が心強いとの声があった。当日、最後の保護者の迎えは夜８時だった。ライフラインが生きていたのが幸이었다が、止まっていたらどうなっていたか。

委員：子どもが家に一人でいた場合の判断に迷う。

委員：通学時に今回のようなことが起こったら、子どもはパニックになってしまうだろう。

副会長：災害が発生時に地域で子どもたちへの声かけや日頃から家庭での話し合いが必要だ。

会長：各施設の情報を共有する仕組みなども必要だ。

副会長：災害時に学校が果たす役割を保護者や地域の方々に周知するとともに学校だよりで「学校ができること」「家庭でできること」「地域にお願いしたいこと」を発信していきたい。

(2) 2025年度学校評価（学校運営協議会委員用）素案について

学校の重点目標に基づく取り組みの成果について、外部の視点から評価をいただき、次年度に生かすために行うもの。評価方法は次の２点を中心に評価する素案について副会長より説明があった。

① アンケート４項目（４段階評価）

② 自由なご意見（印象に残ったこと、良い点、改善を望む点）

委員：授業で先生方が力を入れている点を知りたい。学校の様子を参観すると知ることができる。また、学校と地域の協働についての具体像を示してほしい。

委員：授業支援や防災など、地域と共に子どもを育てる意識を醸成できると良い。

会長：学校評価は、次回、11月の協議会で決定する。

その他

副会長：リソースルームの取り組みや今後の活動に地域協力をお願いしたい。

まとめ

- ・津波警報対応で多くの課題が明らかに。備蓄・周知・連携を整理する必要あり。
- ・学校評価は11月に決定予定。授業や地域協働について具体的に共有する。
- ・リソースルームは地域協力を得ながら活動を継続。

以 上